

「人・農地プラン」策定のための 地域農業情報システム

農政の重要課題である「人・農地プラン」策定のためには、地域農業構造変動要因の解析にもとづく農家戸数の適確な将来予測と担い手経営の特徴の解析が重要です。そこで、農林業センサス個票を用いて市町村単位で地域農業の現状と特徴を示すとともに、農業就業人口、農家数減少による供給農地面積の将来予測を行いました。また、組織形態、営農類型等の観点から担い手経営の特徴を提示します。

☆ 技術の概要

1. この地域農業情報は、農政担当者が地域農業の将来動向と担い手経営の特徴を把握し、「人・農地プラン」等の地域農業の将来ビジョン策定に向けた合意形成に活用できる情報です（図）。

2. 担い手経営への農地集積や農地利用等の地域農業の現状と特徴、2020年までの農業就業人口や販売農家数の変動及び離農に伴う供給農地面積の予測値を確認できます。

3. 販売農家数の予測は、農業地域ごとに経営規模階層、農業就業者数、営農類型を適宜組み合わせ2000年から2005年の農家動態表を作成して2010年の農家数を予測し、実数値と比べて農業地域ごとに最も適合する組み合わせを用いて2015年、2020年の予測を行います。

☆ 活用面での留意点

1. 本プログラムは、中央農業総合研究センターの「農研機構・経営管理システム」のウェブページ (<http://fmrp.dc.affrc.go.jp/publish/>) からダウンロードして利用できます。
2. 詳細は、中央農業総合研究センター農業経営研究領域（電子メール：fmnarc@affrc.go.jp）にお問い合わせ下さい。

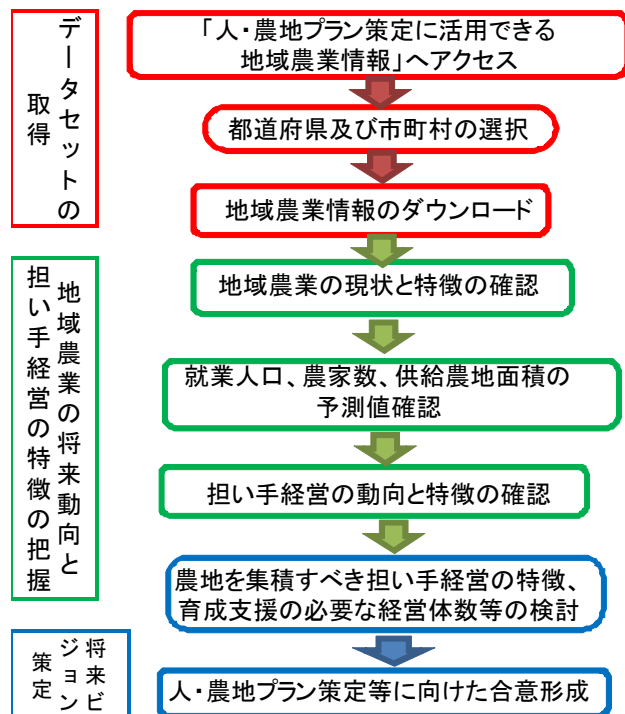


図 「地域農業情報システム」の利用方法

（中央農業総合研究センター 主任研究員 安武 正史）